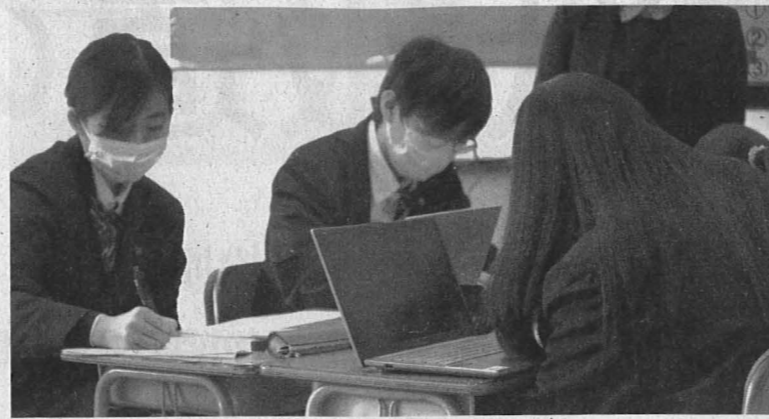


論文指導にも役立つ「アカデミックアセスメントプログラム」(共同印刷)を2校で実証実験

総合型選抜を行う大学が増え、小論文や面接で思考力・表現力を問う傾向が強くなっている。学校現場での課題を解決するプログラムの開発・提供に取り組む共同印刷㈱は、この現状を踏まえ、高校生を対象に論文の型、執筆、発表を体系的に学ぶ実践的なプログラム、「アカデミックアセスメントプログラム」を開発した。今回は、本プログラム内の単元から「文章作成と発表の基礎」「情報を収集する」を抽出し、3時間に凝縮して実証授業を行った2校を紹介する。

実証授業を行ったのは「最初に『大切な物は○○リーダーズアカデミックです』と結論づけると書ラスの1年生。まずは書きやすい、分かりやすい文章を書く場面を探し、文章は誰かに何かを伝えるために、分かりやすい文章を書くことが大事だと認識。まずは短い文章を書いてみる、テーマは『自分が大切にしている物』。書いた文章をグループで共有し感想を話し合う」となっていること



アカデミックアセスメントプログラムでは、意見を出し学び合いながら思いを伝える文章力をつける。

新名学園旭丘高等学校

書いて、話して、 分かりやすい文章に手ごたえ

に納得した。次に、話す場面を考える。同じテーマでメンバーに1分間で発表し、1人1つ質問。「時間配分が分からず、締めるのが難しい」「内容の変更や付け足し、言い直しは簡単」などの感想が出て、話す時も「型を意識すること」が大切であることに合点した。

後半は情報の集め方を学ぶ。まず、普段調べ物をするときの情報源をリストアップし、信頼度や調べやすさをマトリクス表に配置してみる。「AIは使いやすいけどたまにウソをつく」「ニュースは複数のサイトから情報を取っている」などの意見が飛び交った。次に、質が高く信頼できる情報源を見つけるコツ、情報源ごとの特徴を学び、インターネット検索を実践。「芸術鑑賞は人によつたような効果をもたらすのか?」など提示されたテーマから1つを選んで、検索ワードを挙げていく。「自分の興味のあるものに絞り込んでみる」など講師のアドバイスを受けて、考えたワードで検索。チェックリストを活用して情報源の信頼性を評価した。

「言いたいことをどう型に落とし込むか悩んだ」などの意見も出た。

「更新日9年前!」「記事を『型』を使って書き直すと、具象性やエピソード部分をおくからまけること、主語をはっきりさせること、接続詞を上手に使うこと」に注意してできた文章は洗練された一方で、「『最初に論文の目的や結論が書いてある』『〇名を調査。これはいいかも』など根拠のある情報とは何かを実感。執筆テクニックだけでなく、情報の取り方にも自信を得て実証授業を終えた。」

担当教諭の声

対話して学び合いながら、 書き方・伝え方を身につける

以前から、「型」を使って書き直した文章を発表する授業はリーダーが教える形になりがちで他者理解に及びにくいことに違和感を持っていました。(伝え方)が身に付くプログラムだと思っています。情報の取り方では、意外に「型」が役に立っていました。授業を行い、学び合う前に「教える」もキーワードのリストアップに苦戦していました。調べ方にも留意点や基礎も生徒を正確に評価する

「教える」授業はリーダーが教える形になりがちで他者理解に及びにくいことに違和感を持っていました。(伝え方)が身に付くプログラムだと思っています。情報の取り方では、意外に「型」が役に立っていました。授業を行い、学び合う前に「教える」もキーワードのリストアップに苦戦していました。調べ方にも留意点や基礎も生徒を正確に評価する



進路指導グループ主任・
生徒募集担当 菅原亮 教諭

「アカデミックアセスメントプログラム」
監修者メッセージ

終わってき、ひいては負担軽減にはいけなもつながらるのではないかと気付しょうか。これからの社会で求められる「自分の考えを周囲に伝え、社会に還元していく力」を育むために、本プログラムのような先進的な学びを今後も取り入れたいと思います。